



障害があることでの「生きづらさ」「暮らしづらさ」は・・・

この時期になると、私がこの世界で仕事をしはじめた頃を思い出します。私は、大学を卒業後、障害のある幼児の療育を仕事とする施設に勤めました。若い頼りない私を育ててくれたのは、障害のある幼い子供たちと若い父母たち、そして先輩や同僚の職員集団でした。

障害を持って生まれた本人や家族の大変さは、本人の体や機能の障害（障害者基本法では医療モデルといわれています）のしんどさよりも、それ以上に周りの無理解からくるさまざまな社会的要因（社会の事物、制度、慣行、観念そのいっさいのもの・・・障害者基本法より）の方が大きいと知りました。その状況は悲しいことですが今も変わりません。

若い父母が、障害があっても我が子の限りない発達の可能性を信じいっばいの愛を降り注ぐ姿は、「生きている」その命を必死に守っていく姿でした。

その子供たちが療育の場から巣立ち、小学校に行く時に、父や母は「地域の小学校に行くべきか」「養護学校（現：特別支援学校）に行くべきか」の選択を迫られます。当時は父母の希望ではなく教育委員会の選定委員会で決められていました。地域の小学校での就学前の面接も断られたという子供もいました。

「卒園なんかなければいいのに・・・」何度この悲しい言葉を聞いたことでしょうか。それでも、障害のある子どもが小学校へいけなかった時代の先輩の母たちが、必死で「障害の重い子どもたちにも教育の道を」と自分たちの子どものために切り開いてくれたことを知り、勇気ある一歩を踏み出します。卒園の頃には視線の合わなかった子と視線が合うようになり、お友達を目で追い、手がつなげるようになり、笑顔が増え、名前を呼ばれるとその子なりの返事をするようになり、どの子も本当に眩しいばかりの成長をとげます。

それは、障害の無い子供も一緒だと思います。障害のある子どもたちから教えてもらったことは、どんな状況にあっても「『命』を輝かせて生きること」をみんなが大事にできる社会を求めていく事、それをあきらめない事でした。今その子どもたちは、もう「いいおっちゃん、いいおばちゃん」になっています。社会の中で、それぞれ精一杯生きています。

とても魅力的な人間的な人たちと一緒にいると、悩むことは山ほどですが、その倍、一緒に笑い、涙を流すこともそれ以上にあります。「私、みんなと一緒に生きている」と言う実感を一杯もらっています。それなのに、つい最近、三田市で知的・精神障害のある男性が20数年間も小さな檻に入れられて生活していることが分かりました。両親を責めることは簡単ですが、なぜこのような状況を20数年もほおっておいたのか、檻で暮らさせる状況の根っこに何があったのか、今の社会や障害のある人の生きづらさ、暮らしづらさの原因があるように思えてなりません。国民は障害のある人を虐待している状況（その方が虐待ではと心配になるような状況）を見たり、聞いたりしたら、行政に通報する義務が定められた法律（障害者虐待禁止法）や差別に対する法律（障害者差別解消法）もできましたが、まだまだ知られていません。法律を整備することだけではなく、地域の皆さんと一緒に「生きている・暮らしている」実感を今年もいっばい持てたらと思います。

（松本 多仁子）

- 質問① この仕事に入ったきっかけ
 質問② この仕事を続けて、今の気持ち
 質問③ 最近仕事でやりがいを感じたこと

伊藤 智美 (たにがみ支援センター・ひだまり・発達障害者北部相談窓口 センター次長)

- ① 当時精神障がいの方の支援施設が、かがやき神戸しか無かったから。
- ② あっという間だったが、中身は濃かった。
- ③ 12年間勤務した「にし障害者地域生活支援センター」から異動で離れることになり、改めて地域の方と協力していたことを実感できたこと。

武村 厚志

(多機能型つくしんぼ 事業責任者)

- ① 高校1年の時に震災があり、友人が被災。その後支援物資の仕分けなどを経験して、人の役に立つことをしたいと思った。親の勧めもあり福祉の専門学校に入学。実習で障がい者の授産施設へ行った時、そこの方がいきいきしていて、こんなところで働きたいと思った。就職先がなかなか決まらなかったが、かがやき神戸のつくしんぼ共同作業所で募集をしていると紹介され、働く事を決めた。
- ② いきいきしている仲間を見て、就職を決意したので、今でも仲間はずっといきいきしてほしいと思っています。
- ③ 現在は手探り状態なので、まだ見つけている最中です。



水島 良岳 (ぐりいと 事業責任者)

- ① 人とのコミュニケーションを大切にできる仕事だと思い、志しました。
- ② 期待して就いたとおりの仕事でした。障がいのある人を支える仕事は人と体当たりで関わることが求められるので大変ですが、毎日利用者さんと気持ちのやり取りができる仕事を10年間続けられたことは幸せだと思っています。
- ③ 管理職になり、利用者さんと直接関わる仕事だけでなく、事業の経営など土台を支える仕事も多くするようになりました。そのため、福祉をとりまく社会情勢や日本の国家としての考え方やふるまいなどにも、より関心を向けるようになりました。いろんな物事をトータル的にみることが必要になったことで、視野を広く持って仕事に取り組むことが求められる現状にやりがいを感じています。

八幡 孝至 (グループホーム・

とまり木 事業責任者)

- ① 就職先がなかったから・・・
- ② 20年以上やっているんで、きっと合っているんだと思う。かがやき神戸に来てからは好きに出来たので、楽しく仕事が出来た。
- ③ とまり木がたくさんの方に利用してもらえます。

松田 崇介 (事務局次長)

- ① 両親が大阪の知的障害者施設で働いていたため、障害者作業所の存在が身近にありました。両親とは少し違った分野で仕事をしようと思い、神戸に出て学校に通い、精神障がいの方を支援する資格を取得しました。そして、精神障がいの方の支援に力をいれているかがやき神戸に入職しました。しかし、いつの間にか事務局に配属され事務仕事ばかりやっています。
- ② 福祉業界も規制緩和され、業界の状況がどんどん変わっています。昔ながらの作業所のアットホームな雰囲気をどうすれば守っていけるかなあと思います。
- ③ グループホームの移転が上手くいった事です。それまでは古い家屋で生活されていましたが、広く綺麗になり良かったと思います。みんなが描いた夢が実現していくことができ良かったと思います。

地域のボランティアをされている～大里 修さん～



今回は「ボランティアセンターこだま」や「輝きすてっぷ」で、ボランティアとして地域のためにご尽力くださっている大里修さんにお話を伺いました。

Q、最初に地域のボランティア活動を始められたきっかけを教えてください。

「現役時代は歯科技工士として、忙しい毎日を送っていました。月残業 100 時間なんていうのは当たり前。しかし無理が祟り、結局医師のすすめもあって、62 歳で退職をすることになりました。退職後、妻と海外旅行で欧米を中心としたいろんな国に行ったのですが、外国では人生を楽しむことを目的として、そのために働くという人が多い。そんな生き方を見て、自分の働き方は一体なんだったんだろう？そして、残りの人生をどう生きよう？と思いました。そして、この地域のために何か自分ができることをやろうという気持ちになり、『輝きすてっぷ』とのちに発足した『ボランティアセンターこだま』にボランティア登録をしました。20 代の頃に Y M C A でバザーやチャリティ活動をしていたので、ボランティア活動を始めることには何も違和感を感じませんでした。」

Q、今はどのようなボランティア活動をされていますか？

「カーボランティアや有料の草刈りのボランティアをしています。地域のお祭りやバザーの手伝いをすることもあります。このきただよりもボランティアとして地域に配布しています。」

Q、ボランティア活動を通じて、印象に残っているエピソードはありますか？

「はい。カーボランティアを始めて間もないころ、障がいのある方の送迎のため、そのご両親と面談をしたことがありました。すると突然お母さんから『失礼ですが大里さん、ご出身はどこですか？』と聞かれました。『以前職場で可愛がっていた女の子と同じ苗字なので・・・』とのこと。詳しく話を聞くとその女の子とは、なんと私の義姉のことでした。すぐその場で連絡を取り、そのお母さんと義姉が半世紀ぶりの再会を果たすことができました。これもボランティアに関わってこそそのことだと思います。また、ボランティア活動を通して、たくさんの出会いがあり、学ぶことも多々ありました。」

Q、最後に、かがやき神戸に一言お願いします！

「よく卓球仲間と一緒に、かがやき神戸の喫茶店『くろーばあ』に来ます。歯科技工士として営業もやっていたので、どうしても店内のレイアウトなどに目がいきます。くろーばあはコーヒーも安く、野菜売り場を玄関先に配置するなどもっとアピールしたらお客様が増えると思いますよ！」



好きな言葉は『置かれている場所で咲きなさい』、だと教えて下さった大里さん。「その言葉を大切に、無理のない範囲で地域で出来ることをしているんですよ」と笑顔で話して下さいました。これからも地域の心強い存在として、宜しくお願いします！

☆新企画☆

今年度は俳句コーナーをはじめます！！

母の日に
パンツをおくるよ
Lサイズ
(ひだまり モヘンジョダロ)



形容詞
人の気持ち
が
左右する
(心の川柳企画部 ビアンカ)



こいのぼり
ひらひらゆれる
五月だよ
(ひだまり 南方牧子)



※かがやき神戸の利用者・職員から投稿された俳句の中から、選考委員会で選ばれた3作品です！

是非！ぜひ！

応援してください！

会の詳細、ご質問は、
かがやき神戸職員まで、
いつでもお気軽に！

あ・な・た・の・入会♪



お待ちしております～♪

「社会福祉法人かがやき神戸を支援する会」への入会のお願い

(年会費 1000円)

振込先：郵便振替 口座記号番号 00930-1-67354

加入者名 社会福祉法人かがやき神戸を支援する会

☆あなたの一口が障がい者の生活を支えます。「きょうされん」の賛助会員にも、ご協力下さい☆

(年会費 個人3000円 団体6000円)

振込先：郵便振替 口座記号番号 00970-3-250425

加入者名 きょうされん兵庫支部

かがやき神戸を支援する会では、会報誌「かがやき」(年4回)を、
きょうされんでは、会報誌「TOMO」(毎月)を作成し、会員の皆様にお届けしています。

—編集後記—

今年の冬はとても寒かったので、例年以上に春の訪れが嬉しく感じられます。ここ数年は全く運動もせずゴロゴロしているので、過ごしやすい季節を無駄にせず、暑い夏がくる前にウォーキングなどで健康維持をしながら季節を楽しみたいと思います。(平山)